

報道関係者各位

## press release

### ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2025 年 9 月 30 日  
PRESS-25-47

#### 【全国調査】ノボ ノルディスク ファーマ、2025 年度版「肥満」と「肥満症」に関する日本人 9,400 名の意識実態調査結果を発表

一肥満症の認知率は前年比で 4.3 ポイント増と過去と比較して大きく進展も、自身の肥満について医療機関で相談をしたくないと回答した人が全体の半数を占める一

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 (代表取締役社長: キャスパー ブッカ マイルヴァン、本社: 東京都千代田区) は本日、2021 年度より実施している、日本人 9,400 名 (20-75 歳) を対象とした、「肥満」と「肥満症」に関する意識実態調査の 2025 年度版を発表しました。

#### 【調査に関して】

本調査は、2021 年より毎年ノボ ノルディスク ファーマが実施している、第三者調査会社を通じて「肥満」または「肥満症」の疑いがある BMI (体格指数) 25 以上の男女を対象に行ったインターネット調査です。本年度の調査では、肥満症治療の選択肢が増えたことを踏まえ、従来通り肥満症の認知率を探る一方で、減量やセルフケアに関する意向を中心とした調査から、ペイシエントジャーニー (患者さんが病気を認知し、医療機関で診断・治療を進めていくプロセス) のステップで重要となる「医療機関への相談検討・相談フェーズ」における障壁と促進要因へと調査の内容をシフトし、その詳細を分析しました。

その結果、肥満症の認知率は 13.0%と過去の推移と比較して大きく進展した一方で、自身の肥満について「(医療機関へ) 相談したい」と回答した人は 15.2%、「(医療機関へ) 相談したくない」と回答した人は 50.5%と、医療機関への相談意向は高くないことがわかりました。この要因としては、自己責任感や病状の軽視などの心理面に加え、情報不足が相談のバリアになっていると考えられ、今後の啓発活動において肥満症の疾患としての認知を高める活動と同時に、相談フェーズへの支援がより一層重要であることが示されました。

調査結果の主なポイントは以下となります。

#### 【調査結果の主なポイント】

- ・ 肥満症の認知率は、前年比で 4.3 ポイント増の 13.0%と、今までの推移 (2024 年度 8.7%、2023 年度 8.3%) の中で最も大きく進展しました。“肥満症疑いあり”層における認知率は 2025 年度で 13.5%、2024 年度で 10.8%、2023 年度で 10.2%と比較的認知率が高い層でしたが、本年度は“肥満症疑いなし”層で前年度比 5.4 ポイント増の 12.6%の認知率を獲得したことが全体の認知率を高めた要因であると考えられます。“肥満症疑いなし”層におけるこの進捗の大きな要因は明らかではありませんが、少なくとも、肥満症に関する情報源として「ソーシャルメディア／ブログ」が“肥満症疑いあり”層と比べて、“肥満症疑いなし”層に影響を及ぼしていることがわかりました。肥満症の認知率は以下となります。
  - 全体: 13.0% (前年比+4.3 ポイント)
  - 肥満症の疑いあり: 13.5% (前年比+2.7 ポイント)
  - 肥満症の疑いなし: 12.6% (前年比+5.4 ポイント)

※2023 年度までは肥満症の認知率を、肥満と肥満症の違いを「よく知っている」「知っている」「聞いたことがある」までを「認知」として集計していましたが、2024 年度より「よく知っている」「知っている」を「認知」として考え、過去の結果も 2024 年の考えに合わせて再集計しています。

- ・ 肥満症の「認知」には至りませんが、肥満と肥満症の違いを「聞いたことがある」と回答した人は 33.7%と、過去調査 (2024 年度 25.6%、2023 年度 25.4%) の中で最も高いスコアと伸び率を記録しました。
- ・ 肥満症の認知率が高まった一方で、自身の肥満について「医療機関で相談したい」という回答した人は 15.2%、「相談したくない」と回答した人は 50.5%と、自身の肥満に関しての医療機関への相談意向は高くありません。肥満度別の医療機関への相談意向では、肥満度が 1 度から 3 度へ高まるほど「かなり相談したい」と回答した人の率が高くなる一方、肥満 4 度 (BMI40 以上) では「全く相談したくない」が 31.3%となり、肥満区分の中で最も高いことがわかりました。肥満 4 度の人の傾向として、肥満 1~3 度の人よりも肥満症の認知率が低く、医療機関に相談をしたくない理由として、肥満 1~3 度の人と比較して「相談しても無駄だと思ったから」「医療機関に行くとお金がかかるから」を挙げた人が多くみられました。肥満区分ごとの医療機関への相談意向は以下となります。

#### 自身の肥満について、「(医療機関へ) 相談したい」と回答した人

※「かなり相談したい」「やや相談したい」計

➤ 全体:	15.2%
➤ 肥満 1 度 (BMI25-30 未満):	14.2%
➤ 肥満 2 度 (BMI30-35 未満):	18.0%
➤ 肥満 3 度 (BMI35~40 未満):	23.9%
➤ 肥満 4 度 (BMI40 以上):	18.1%

#### 自身の肥満について、「(医療機関へ) 相談したくない」と回答した人

※「あまり相談したくない」「全く相談したくない」計

➤ 全体:	50.5%
➤ 肥満 1 度 (BMI25-30 未満):	52.7%
➤ 肥満 2 度 (BMI30-35 未満):	44.7%
➤ 肥満 3 度 (BMI35-40 未満):	34.7%
➤ 肥満 4 度 (BMI40 以上):	39.1%

#### 自身の肥満について、「(医療機関へ) 全く相談したくない」と回答した人

➤ 全体:	29.2%
➤ 肥満 1 度 (BMI25-30 未満):	30.2%
➤ 肥満 2 度 (BMI30-35 未満):	25.8%
➤ 肥満 3 度 (BMI35-40 未満):	22.4%
➤ 肥満 4 度 (BMI40 以上):	31.3%

- ・ 医療機関への相談意向が高くない原因として、自己責任感や病状の軽視などの心理面に加え、情報不足が相談のバリアになっていると考えられます。医療機関へ自身の肥満に関して相談した経験がない理由として高いスコアを獲得した項目は、「肥満は自己責任だと思うから」が 29.1%と最も多く、次いで「医療機関へ行くとお金がかかるから」が 23.1%、「相談するほどの肥満だと思っていないから」が 20.3%となっており、これらはいずれも「特に理由はない (19.3%)」よりも上回る結果となりました。また、「病院に

相談する際にハードルとなっているもの」を探ったところ、費用面やどの診療科で受診できるのかがわからないといった、肥満症治療に関する情報が不足していることが原因となっていることがわかりました。

#### 肥満の悩みを医療機関に相談したことがない理由 上位3つ

- 肥満は自己責任だと思うから 29.1%
- 医療機関へ行くとお金がかかるから 23.1%
- 相談するほどの肥満だと思っていないから 20.3%

#### 肥満の悩みを医療機関に相談するときにハードルとなっている理由 上位3つ

- 費用がどのくらいかかるかわからない 29.9%
- どの診療科に相談すればよいかかわからない 22.8%
- 特にハードルとなっているものはない 20.9%

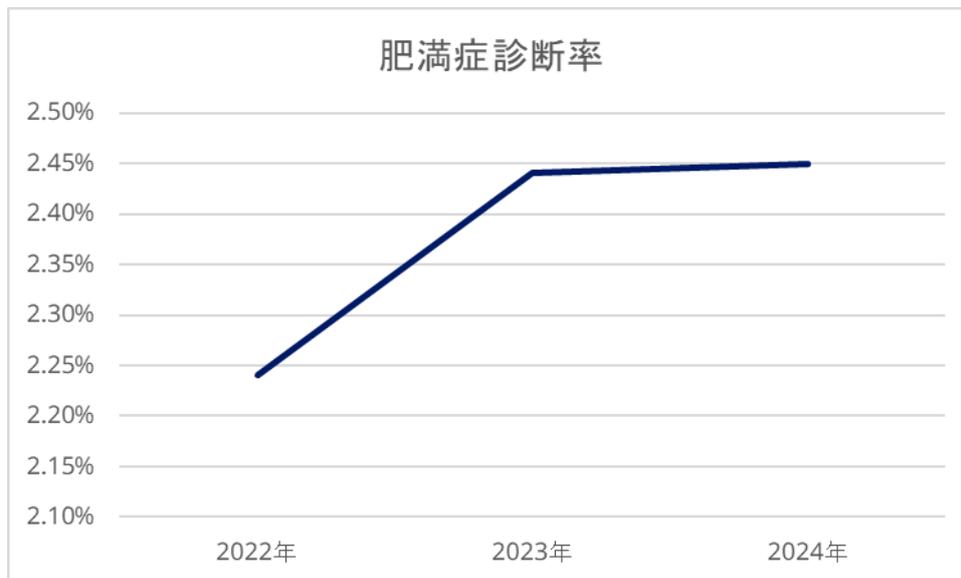
- ・ 全体の中で「自身の肥満の悩みを医療機関へ相談したことがある」と回答した人は9.0%で、病院受診・医師への相談のきっかけになったことを聞いたところ、「健康診断で勧められたから」が最も多い45.8%、次が「肥満に伴う健康障害が心配だったから」が39.3%、その次が「専門家の意見を聞きたくったから」が23.5%となりました。また、「肥満症を認知している」層に、肥満症治療について調べる際に信頼する情報源を聞いたところ、「かかりつけ医・主治医」が36.4%、「専門家や医療機関のウェブサイト」が22.1%、「身近で肥満症を治療した経験がある人」が11.4%と、治療に関しては医療機関や専門家、または経験者からのアドバイスが重視されていることがわかります。

ノボ ノルディスク ファーマ 心血管・代謝内分泌マーケティング本部 本部長である小谷 啓輔は次のように述べています。

「肥満症に対する社会的認知は、今年度の調査で13.0%と過去と比較して着実に進展を見せました。これは、疾患としての肥満症の理解が少しずつ広がっていることを示す重要な指標です。一方で、自身の肥満について『相談したくない』と回答した人が50.5%に上るなど、医療機関への相談意向は高くありません。このギャップの背景には、過去の調査でも問題視されていた『自己責任感』や『病状の軽視』といった心理的要因だけでなく、『肥満症治療に関する情報が不足している』ということもあとわかりました。2024年度の肥満症の診断率は2023年度と同水準で推移しました。医療従事者の皆様のご尽力により、一定の成果は維持できているものの、さらなる改善には新たなアプローチが必要と考えています。当社は医療従事者の皆様、そして患者さんの声を丁寧に拾いながら、次の一手を検討してまいります。

また、今後は、肥満症の疾患としての認知をさらに高めるとともに、調査でも明らかになったように、ペイシェントジャーニーの中でも特に『相談フェーズ』における支援を強化することが求められます。当社は、肥満症に取り組む企業として、患者さんが孤立することなく、医療機関とつながりながら適切な支援を受けられる環境の整備を目指しています。」

## 肥満症診断率<sup>1</sup>



### [調査概要]

調査期間: 2025年6月23日(月)～6月26日(木)

調査対象: 日本全国、BMI 25以上の20-75歳の男女

調査人数: 9,400名

調査方法: インターネット調査

集計方法: 47都道府県男女100ss(サンプルサイズ)となるようにウェイトバック集計を実施

### 「肥満」と「肥満症」について<sup>2</sup>

日本では、脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積した状態で、体格指数、BMI 25以上のものが「肥満」と定義されています。「肥満症」は、肥満があり、肥満に起因ないし関連する健康障害を合併するか、その合併が予測され、医学的に減量を必要とする病態と定義されています。

#### 肥満症の診断に必要な健康障害:

1. 耐糖能障害(2型糖尿病・耐糖能異常など)
2. 脂質異常症
3. 高血圧
4. 高尿酸血症・痛風
5. 冠動脈疾患
6. 脳梗塞・一過性脳虚血発作
7. 非アルコール性脂肪性肝疾患
8. 月経異常・女性不妊
9. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群
10. 運動器疾患(変形性関節症:膝・股関節・手指関節、変形性脊椎症)
11. 肥満関連腎臓病

#### 参照資料:

1. 出典: Copyright © 2024 IQVIA. IQVIA Claims (2022~2024) をもとに作成。無断転載禁止
2. 日本肥満学会: 「肥満症診療ガイドライン 2022」, 日本肥満学会, ライフサイエンス出版, 東京, 2022, p.1-3

## 「TRUTH ABOUT WEIGHT 肥満症を知る」について

「TRUTH ABOUT WEIGHT 肥満症を知る」は、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社が運営する、“肥満症を正しく理解する”をコンセプトに、肥満症とともに生きる方とご家族、および肥満改善を目指す方々をサポートするウェブサイトです。肥満症や肥満のさまざまな要因を解説する記事や、クイズとともに肥満症について学べる肥満症リテラシー検定、肥満や肥満症と生きる人々のインタビュー記事など、さまざまなコンテンツを掲載しています。

「TRUTH ABOUT WEIGHT 肥満症を知る」サイト URL: <https://www.truthaboutweight.global/jp/ja.html>

## ノボ ノルディスクについて

ノボ ノルディスクは、1923年創立のデンマークに本社を置く世界有数のヘルスケア企業です。私たちのパーパスは、糖尿病で培った知識や経験を基に、変革を推進し深刻な慢性疾患を克服することです。その目的達成に向け、科学的革新を見出し、医薬品へのアクセスを拡大するとともに、病気の予防ならびに最終的には根治を目指して取り組んでいます。ノボ ノルディスクは現在80カ国に約78,400人の社員を擁し、製品は約170カ国で販売されています。日本法人のノボ ノルディスク ファーマ株式会社は1980年に設立されました。詳細はウェブサイトをご覧ください。(www.novonordisk.co.jp)